

### ★「Interactive Tuning」機能の使い方

Armonia v2.10.0 から Rational Acoustic 社の「Smaart8」との連動が新機能として追加されました。左上の「View」タブ内へ「Interactive Tuning」項目が追加されています。

これにより同一ネットワーク内で Smaart を起動すると、波形表示とコントロールが Armonia 側からも可能となります。この機能は、Powersoft 社がリリース DSP 内蔵パワーアンプであればどのモデルでもご使用が可能です。

ご使用いただくためにはまず「Smaart」側、「Armonia」側の両方で初期設定が必要です。下記を参考の上、設定を進めてください。

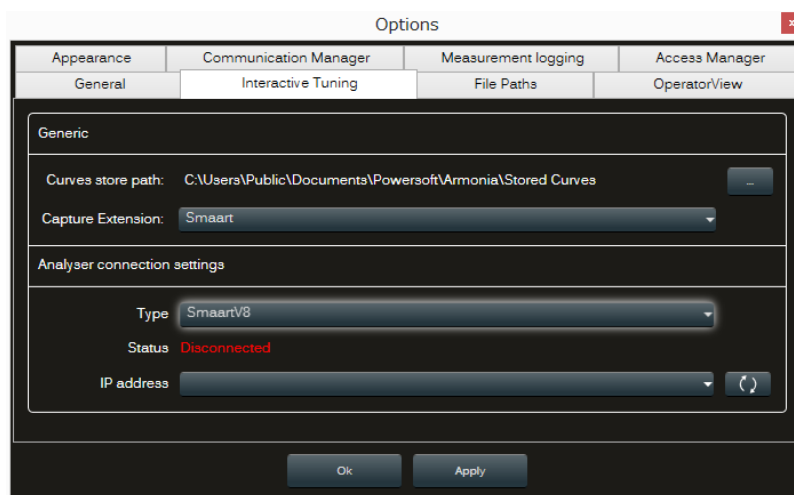
#### ○Smaart ソフトウェア内

「Option」から「General」タブより、「API 機能を Enable としてください。

Smaart 側の設定は以上です。

#### ○Armonia ソフトウェア内

「Option」より、Interactive Tuning タブをクリック



上図から設定を進めていきます。デフォルト状態では、このように Disconnected 状態になっています。「Capture store path」から、波形の保存先を変更できます。「Capture Extension」から「Smaart」を選択、同一ネットワーク内に Smaart が起動されていれば「Type」から「Smaart8」を選択すると、「IP address」へ任意の IP アドレスが表示されるのでクリックしてください。

「Status」が Connected(緑色)になったら同期は成功です。

X / Ottocanali / Quattrocanali / Duecanali1604 各モデルは Adv EQ / Spk EQ / Ways EQ で、K / M では InputEQ / OutputEQ 画面で「Interactive Tuning」機能がご使用いただけます。

「Workspace」内で作成した Adv Group の EQ 画面も同様です。

左上の”View 内から””Interactive Tuning”をクリック、有効にしてください。(オレンジ色状態)



Smaart 内で設定したマイクをクリックすると集音されている特性が Armonia の EQ 内へ表示されます。”Mag”のチェックマークでマグニチュードの表示有無を、”Ph”のチェックマークでフェーズ特性の表示有無をそれぞれ選択できます。

”Capture”から、波形をキャプチャーしプロパティから名前を付けたり、色を変えたりすることができます。必要に応じて Gain 値、LF / HF の表示スケールを変更することができます。



上図赤枠から、マグニチュード / フェーズ波形表示へのスムージングを設定することができます。

”Invert”を Enable にすると、波形を上下反転表示することができます。

”EQ Interactive”機能を Enable にすると、Armonia からの EQ 作業がキャプチャーした波形へ対して直接リアルタイムで反映されます。この結果は極めて高い精度で実音として出力されるため、オフライン特性補正ともいうことができるかもしれません。

実現場で例えると、ピンクノイズで初期波形をキャプチャーした後に、ノイズを MUTE、キャプチャーした波形に対して Armonia 上で EQ 処理を施すことによって補正後の波形予測が可能になるという画期的な機能です。これまでノイズを出力していた時間を大幅に削減することもできるでしょう。スピーカー自体の特性を補正する Output の EQ 段でも、実際にスピーカーを配置した後の部屋環境に対する Input の EQ 段でも、この機能はご使用いただくことができます。

最新 Armonia ソフトウェアは下記よりダウンロードが可能です。

<http://armonia.powersoft.it/>

